

# 中越沖地震13年

# 記憶の風化防ごう

中越沖地震から13年となった16日、大きな被害を受けた柏崎市では、記憶の風化を防ごうと、市内一斉の防災訓練のほか、地域や学校単位で地震・津波に備えた避難訓練があった。原発事故を伴う複合災害への対応や、新型コロナウイルス感染症対策などの課題を確認した。

【内藤陽】



眼下に海が見える高台で、吉田さんの話を傾ける避難訓練に参加した住民たち―柏崎市宮川の西光寺で

「こっちは海が目の前にあるんだから、やわな訓練じゃない」。東京電力柏崎刈羽原発から北に約1・5キロの宮川地区で、町内会長兼自主防災会長の吉田隆介さん(71)は意気込んだ。道路が波打ち建物が倒壊するなどの被害の出た同地区では地震後、毎年避難訓練をしている。

住民約240人のうち参加した約80人が、自宅に近い寺や高台など6カ所に分散避難。午前10時に市の無線が流れると、水や食料、貴重品を入れたリュック

## 津波も想定し避難訓練

### 柏崎で80人参加 原発事故やコロナ対策確認

クを背負い、ヘルメットや帽子にマスク姿で続々と避難場所に向かった。

このうち高浜コミュニティセンター(海抜7.4)前の高台にある西光寺(同16・7)には約30人が避難。つえをついた高齢者が急な坂を上る際には他の住民が手を貸し、約15分で避難を終えた。トランシーバーで他の避難場所と連絡を取り合

い、本番さながら互いの無事を確認した。

**中越沖地震**  
2007年7月16日午前10時13分、中越沖を震源とするマグニチュード6・8の地震が発生。長岡、柏崎市、刈羽村などで最大震度6強を観測。災害関連死を含め15人が死亡し、2300人以上が重軽傷を負い、住宅被害は4万4000棟に上った。東京電力柏崎刈羽原発3号機の変圧器では火災が発生、原発から黒煙が上る映像が全世界に放送された。



段ボール製のベッドを協力して組み立て、寝心地を試す参加者―柏崎市中田の北鯖石コミセン体育館で

事故との複合災害が起きた場合、高台に逃げるのかコミセンに残るのか、判断に迷う事態も予想される。

吉田さんは「実際の避難がないにこしたことはないが、自然災害は予測できないので今後も続けていくしかない。(複合災害に備え)コミセンの防護措置より、マイクロバスや専用マスク、防護服があった方がまし」と訴えた。

同地区は原発から5キロ圏の即時避難区域(PAZ)で、原発事故時にはPAZ外に即時避難する決まりだ。だが、移動が困難な高齢者はPAZ内の高浜コミセンに屋内退避する可能性もある。同コミセンは放射線防護対策をしているが、津波に襲われる危険もある。地震・津波と原発

参加者40人が4グループに分かれ、協力して組み立てた。長さ1・8メートルのベッド1台の2四方を間仕切りで囲う。試しにベッドに寝てみた同市比角4区

の町内会長、高橋正彦さん(77)は「予想外に柔らかくて寝心地はいい。周りを囲うと夏は暑くてかなわないが、コロナの不安もあるのでぜひいたくは言えない」と話した。

天気	のち	一時・時々	5ミリ以上
上越	気温26/20℃	降水確率 40%	30/22℃
中越	気温27/20℃	降水確率 40%	30/22℃
下越	気温27/20℃	降水確率 10%	

洗濯	熱中症	紫外線
2	3	2
乾きにくい	嚴重警戒	やや強い